

【球磨村】 校務DX計画

文部科学省は、次世代の校務DXの方向性として、「働き方改革の観点」、「データ連携の観点」、「レジリエンスの観点」の3つの観点の事柄を実現する必要があるとしている。（文部科学省：GIGAスクール構想の下での校務DXについて〔令和5年3月8日〕）

1. 趣旨

球磨村では、GIGAスクール構想に基づき、令和2年度からICT環境の整備を進めてきた。しかしながら、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められている。

これらの課題を解決するため、本村では教職員の働き方改革の一環として、校務のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、業務の効率化や負担軽減に向けた具体的な取り組みを進めることとする。

2. 球磨村における課題等について

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果（文部科学省 令和5年11月実施）を踏まえ、球磨村における次の課題を明確にした。これらの課題解決に向けて、学校と連携を強化しながら、校務DXの推進を図る必要がある。

① FAX/押印の原則廃止

文書のやり取りについては主に電子メールを活用しているため、FAXはほぼ使用していない。押印については、一部の文書において未だ必要な状況にある。事務処理の効率化を図るうえで、押印廃止を進めていく必要がある。

② ゼロトラストネットワークの採用

校務系と学習系のネットワークがセキュリティ確保の観点から分断されている状況にあるが、現場から統合型ネットワークを構築した方が活用しやすいとの意見も出ている。

③ ペーパーレスの推進

学級通信等を紙媒体で配布している状況にあるため、印刷作業時間の削減等をめざし、より一層、ペーパーレスを進める必要がある。

3. 校務DXに向けた取組

上記の課題を踏まえ、校務DXに向けた取組を以下のとおり進める。

① FAX/押印の原則廃止

事務処理の効率化を図るうえで、現在もFAXでの文書のやり取りは行っていない。また、押印の廃止に向けても進めていく。

② 校務系・学習系ネットワークの統合

本村では、令和6年度から校務支援システムのクラウド化を実施した。これにより、教職員一人一人の事情に合わせた柔軟かつ安全な働き方を可能としている。

一方で、セキュリティ確保のため、校務系のネットワークと学習系のネットワークをそれぞれ整備し、分断しているが、ゼロトラストセキュリティの考え方に基づいた統合型ネットワークの構築が求められることから、教員のタブレット端末から校務系、学習系両方のネットワークを利用できるよう、セキュリティ対策を踏まえ、ネットワークの統合について調査研究を進める。

③ ペーパーレスの推進

クラウド型グループウェアサービスを活用し、会議や研修等の際の資料をデータで共有するなどし、ペーパーレスな取り組みを実施している。

学校現場では学級通信などを保護者や児童生徒へ紙媒体で配布する状況にあるため、クラウドツールを活用し、さらなるペーパーレス化を進めていく。

④ 校務における生成A I等の活用

先進的に実践している学校や自治体を参考にしながら、本村においても学校での生成A Iの利用に関する規定を定め、教育場面や校務での利活用に向けて調整していく。具体的には、令和7年度にA Iを活用した時間割作成システムの活用を試行し、令和8年度の正式導入に向けて進めており、時間割作成における調整等の時間削減を図っていく。

⑤ 不必要な手入力作業の一掃

村教委から学校へデータで名簿情報を提供することにより、校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃を目指す。